

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座

第12回

データを通して見る 社会の姿

ー データ分析の考え方 ー

佐々木 健志 大阪大学感染症総合教育研究拠点 (CiDER)
特任准教授 (常勤)

会場参加 (※事前申込要) / オンライン参加 (申込不要)

2024年3月29日 (金) 19:30 ~ 20:30

・会場：グランフロント大阪 北館 2F SpringX
・オンライン：YouTube Live

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座

2021~2022年度の2年間、大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)は、『感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座』を通じて、パンデミックという緊急事態に対応する方法をお届けしてきました。今年度からは、パンデミック後の社会や将来のパンデミックをみすえて講座をリニューアルして、科学的根拠(エビデンス)と上手に付き合いながら、私たちの「いのち」と「暮らし」を豊かにする術(すべ)を皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象に、わかりやすく解説する全12回のプログラムです。

講座概要

現代社会において、データは社会の問題解決やビジネスの付加価値創出など、多岐にわたる場面で活用されています。データ分析は、膨大な情報の中からパターンや傾向を抽出して新たな知見を得る手段として広く採用されています。我々が直面する社会の様々な課題に対処する際、データ分析を駆使することで問題の本質を理解し、効果的な施策を検討できるようになります。

この講義では、データ分析の基本的な考え方から始め、その応用範囲を探りながら社会にもたらす影響について考えます。

講師



佐々木 健志 大阪大学CiDER 特任准教授(常勤)

博士(理学)。東京工業大学 理工学研究科 基礎物理学専攻博士課程修了。日本学術振興会特別研究員(高エネルギー加速器研究機構)、バレンシア大学素粒子物理学研究所、筑波大学計算科学研究センター等で博士研究員を務め、京都大学基礎物理学研究所特任助教を経て、2021年より現職。機械学習を使ったデータ分析に興味があり、感染症の感染者数推移予測へ応用するプロジェクトを進行中です。

▶ 3月29日開催講座の詳細・
会場参加申込・オンライン視聴はこちら<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2023/detail20240329.php>

▶ 過去の講座はアーカイブで視聴できます。

<https://www.cider.osaka-u.ac.jp/project/project01.html>

主催 CiDER (大阪大学感染症総合教育研究拠点)、一般社団法人ナレッジキャピタル

問い合わせ 大阪大学感染症総合教育研究拠点

☎ 06-6879-4903 ✉ info@cider.osaka-u.ac.jp 🌐 <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html>

CiDER